

作杆、徐廣曰、杆音楷、是也、蜀本圖經云、高二三尺、花黃實黑、根多鬚、皮黃黑肉赤黃、陳藏器曰、本草射干、卽人間所種爲花草、亦名鳳翼、葉如鳥翅、秋生紅花赤點、圖經、葉似蠻蠻而狹長、橫張、疎如翅羽狀、故一名鳥翼、謂其葉中抽莖似萱草而強硬、六月開花黃紅色、瓣上有細文、秋結實作房、中子黑、

〔饅頭屋本節用集加草木射干〕

〔書言字考節用集六生植〕

〔カラスアフギ〕

〔鳳翼金牛仙人掌並同、烏扇茸〕

〔野萱草本草並見烏蓮文〕

〔東雅十五卉〕射干カラスアフギ○中カラスアフギとは鳥扇の字の訓をもて呼びしなり、今俗にヒアフギといふは、檜扇を開くに似たるをいふなるべし、又俗にシヤガといふ物は蝴蝶花也、花史花鏡等に蝴蝶花類射干といふなり、シヤガといふ義詳ならず、万葉集抄にシヤガとは、ソレがどいふものに似たれば、かく云ひしも知らず、又俗にカラスアフギをば鳥扇と云ひしも知るべからず、

〔大和本草〕射干和名カラスアフギ、漢名モ亦鳥扇ト云、本草ニ陳藏器曰、射干葉如鳥翅、秋生紅花赤點、人間所種爲花草、丹溪曰、紫花者是ナリ、紅花者非ナリト、今日本ノカラスアフギニハ未見紫花者、但中夏ニアサテ日本ニナキ也、時珍曰、紫花者呼爲紫蝴蝶、イチハツト云、物射干ニ似テ花紫ナル故、是丹溪ガ所謂花紫ナル者ナラント云、人アレドモ、射干ト鳶尾ハ全ク別ナリト、蘇恭モイヘリ、只日本ニハ射干ノ紫花ナル者ナシトスベシ、射干非一種、有花白者花黃者花紫者トイヘリ、

〔和漢三才圖會毒草〕射干野萱花草薹黃遠仙人掌紫金牛○中

按本草綱目射干與鳥扇爲一物、因倭名抄亦云、射干一名鳥扇、須安布木並未詳審其二物莖葉花形狀各別也、蘇頌所謂莖梗疎長、正如射之長竿之狀者射干也、莖短葉側相比而如扇者鳥扇也、射干葉似鳶尾而澗段抱莖上生、中心抽一莖高三四尺、七月開花似萱草花而六瓣黃赤、俗呼紅葉色有細點略如山丹花、結實作房、如胡麻房而三稜、一房六隔、有中子、二三十粒大如豌豆、而生青熟紫黑色